



平成 20 年 11 月 7 日

各 位

会 社 名 タ カ ノ 株 式 会 社
代 表 者 名 代表取締役社長 鷹 野 準
(コード番号：7885 東証第一部)
問合せ先責任者 取締役企画室長 臼 井 俊 行
(TEL 0265-85-3150)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 5 月 9 日および平成 20 年 8 月 8 日に公表した通期および第 2 四半期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位：百万円)

1. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回 (平成 20 年 8 月 8 日) 発表予想 (A)	百万円 9,450	百万円 △460	百万円 △400	百万円 △300	円 銭 △19.08
今回修正予想 (B)	9,376	△473	△412	△310	△19.77
増減額 (B－A)	△74	△13	△12	△10	—
増 減 率 (%)	△0.8	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	10,405	392	429	243	15.50

2. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回 (平成 20 年 8 月 8 日) 発表予想 (A)	百万円 8,900	百万円 △340	百万円 △360	百万円 △250	円 銭 △15.90
今回修正予想 (B)	8,816	△445	△445	△330	△21.00
増減額 (B－A)	△84	△105	△85	△80	—
増 減 率 (%)	△0.9	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	9,776	417	459	293	18.67

3. 平成 21 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回 (平成 20 年 5 月 9 日) 発表予想 (A)	百万円 24,300	百万円 900	百万円 1,000	百万円 580	円 銭 36.90
今回修正予想 (B)	22,000	△80	10	30	1.91
増減額 (B－A)	△2,300	△980	△990	△550	－
増 減 率 (%)	△9.5	－	－	－	－
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	22,216	610	668	401	25.53

4. 平成 21 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回 (平成 20 年 5 月 9 日) 発表予想 (A)	百万円 22,900	百万円 820	百万円 780	百万円 465	円 銭 29.58
今回修正予想 (B)	20,800	△45	0	0	0.00
増減額 (B－A)	△2,100	△865	△780	△465	－
増 減 率 (%)	△9.2	－	－	－	－
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	20,793	671	684	385	24.50

5. 修正の理由

(1) 第 2 四半期連結累計期間連結業績

第 2 四半期連結累計期間連結業績は、以下に記載の第 2 四半期累計期間個別業績予想修正の影響はあったものの、平成 20 年 8 月 8 日時点の見通しと比べ、連結子会社各社の業績が改善したことから、直前業績予想数値より売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益とも微減となりました。

(2) 第 2 四半期累計期間個別業績

①売上高

第 2 四半期累計期間個別業績における売上高は、景気動向の不透明感の継続から企業のオフィス関連設備投資の手控えが顕在化し、オフィス椅子販売が減少したこと等により、直前業績予想数値を下回りました。

②営業損益、経常損益等

利益面におきましては、全社的な経費削減等に努めてまいりましたが、主に上記の売上高の減少要因により、直前業績予想数値を下回りました。

(3) 通期連結業績

通期連結業績は、以下に記載の通期個別業績予想の修正の影響にともない、前回発表予想を修正するものであります。

(4) 通期個別業績

①売上高

画像処理検査装置部門においては競争の激化にともなう販売価格の低下等の影響はあるものの当初見通し程度の売上高は確保できる見通しである一方、米国に端を発する金融危機にともなう景気の急減速により企業のオフィス関連設備投資も停滞する中、オフィス椅子の販売が大きく減少する見込みであり、売上高は当初計画を下回る見通しであります。

②営業損益、経常損益等

利益面におきましては、主に上記のオフィス椅子の売上高の減少、画像処理検査装置の販売価格の低下要因によるもののほか、画像処理検査装置部門におけるソフトウェア製作に係る外注加工費の増加等、売上原価が期初における見通しと比較し、増加すること等により、損益面は当初計画を大幅に下回る見通しであります。

以上

(注) 業績見通しにつきましては、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。